

「データヘルスによる可視化で地域社会が大変身！先進事例の横展開」

はじめに データの活用で人も組織も“かわる”

- 特徴とその背景が“わかる”と人も組織も“かわる” ▪

1 “健康寿命の延伸”を目指し「データヘルス」を導入

- 超高齢社会は健康課題が多様化 ▪
 - データに基づく健康課題の可視化が起点
- 治療から予防への政策の潮流 ▪
 - 国民皆保険制度下に「データヘルス」を導入

2 健康課題の可視化を起点にする；先進事例より

- 「データヘルス」は超高齢社会のプラットフォーム ▪
 - 働き方×健康課題 ⇨ 企業が“かわる”（東京）
 - 食文化×健康課題 ⇨ 学校、家庭が“かわる”（静岡）
 - 住民の健康増進×地域資源との共創 ⇨ 社会が“かわる”（福島）

3 横展開するための政策の要素が見えてきた

- 評価指標の標準化 ▪
 - 「データヘルス・ポータルサイト」で全国比較、ノウハウ蓄積が可能に
- 横展開のための“処方箋” ▪
 - 自治体の社会環境、施策の進捗に応じた事業のパターン化
 - * 内閣府・東京大学による調査研究より

おわりに 長寿国・日本の政策で目指すこと

- 生き生きとした人生、やりがいのある社会活動を実現できる社会の構築 ▪

古井祐司 医学博士 <https://ifi.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学未来ビジョン研究センターデータヘルス研究ユニット特任教授
自治医科大学客員教授／内閣府経済財政諮問会議専門委員